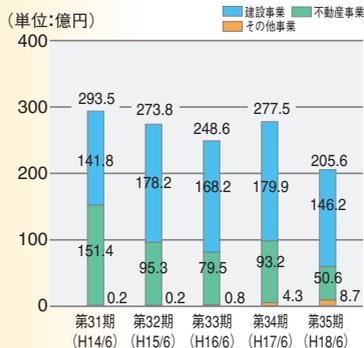
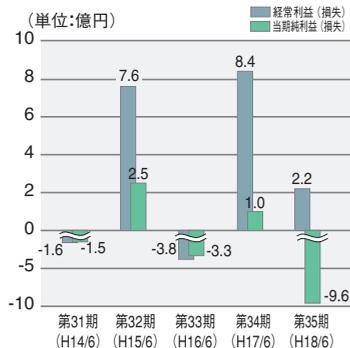


	第31期 (H14/6)	第32期 (H15/6)	第33期 (H16/6)	第34期 (H17/6)	第35期 (H18/6)
	(単位：億円)				
売上高	293.5	273.8	248.6	277.5	205.6
経常利益 (△経常損失)	△1.6	7.6	△3.8	8.4	2.2
当期純利益 (△当期純損失)	△1.5	2.5	△3.3	1.0	△9.6
総資産	254.2	240.3	226.4	206.8	195.5
株主資本	36.6	38.1	34.1	33.9	22.4
	(単位：円)				
1株当たり					
株主資本	282.15	293.35	263.08	261.20	184.81
当期純利益 (△当期純損失)	△12.21	19.79	△26.03	8.38	△74.25
配当金	5	10	10	10	5

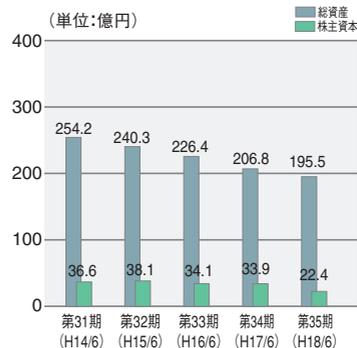
■ 売上高 (部門別)



■ 経常利益(損失)/当期純利益(損失)



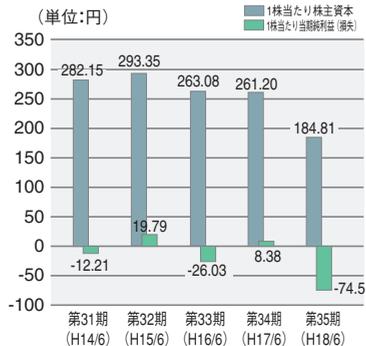
■ 総資産 / 株主資本



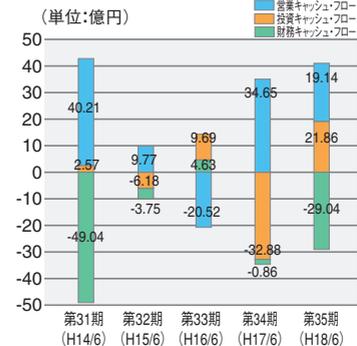
■ 株主資本比率



■ 1株当たり株主資本 / 1株当たり当期純利益(損失)



■ 連結キャッシュ・フロー





代表取締役社長 工藤 英司

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当連結会計年度における我が国経済は、公共投資が減少を続けるものの、米国及び東アジア向け輸出の増加を背景に、企業収益の改善や民間設備投資の増加により、足元の景気が着実に回復を続けてまいりました。また、雇用情勢や個人消費に関しましても、緩やかであるものの改善傾向を示しました。

当グループが属します建設業界におきましては、民間工事は、企業収益の改善を受け堅調に推移したものの、官庁工事の減少基調が続き、加えて受注競争は一段と激化しており、経営環境は厳しい状況にあります。

このような情勢のなか、当グループは、神奈川・東京を営業エリアとし、「地域の人々に対して全てのライフステージにわたって居住し続けられる“住まい”を提案する。」ことを実現するために事業展開をはかってまいりました。

建設事業における民間工事部門におきましては、賃貸マンションのオーナー様による「賃貸経営オーナー会」との親交を中心に地域密着の営業を行い、設計・施工における品質重視の建設を行ってまいりました。また、耐震補強を含めたマンション大規模修繕や、ビルのコンバージョン（用途転換）提案等のリノベーション事業も軌道に乗りつつあります。

「いいね 地下室のある暮らし」をキャッチコピーとして、地下室付き住宅を中心とする設計・施工を行う住宅部門におきましては、地元「横浜」のみならず、県外のお客様からの受注を含め順調に推移し、「フローレンス・ガーデン」ブランドの確立に向け事業の拡大をはかっております。

その他事業における「高齢者福祉事業」につきましても、「フローレンスケアたかつ」「フローレンスケア美しが丘」「フローレンスケアたまプラーザ」に続き、当連結会計年度は「フローレンスケア港南台」と「フローレンスケア宿河原」の2施設の運営を開始し、「ひとり一人の心地よさを追求する」ことを原点に、ご入居者の方々に温か

な癒しの場と、思いやりの真心をご提供する施設計画・運営を行ってまいります。

また、子会社である(株)日建企画、(株)ピーエー・ジーでは、中川店・たまプラーザ店・市が尾店・仲町台店・恵比寿店・横浜西口店の6店舗で営業を行い、賃貸マンション等の顧客獲得と不動産資産活用の情報収集を行っております。

当連結会計年度における当グループの連結業績は、次のとおりとなりました。

売上高は205億64百万円（前連結会計年度比25.9%減）、経常利益は、2億24百万円（前連結会計年度比73.5%減）、そして、完成工事補償費61百万円、保証金整理損79百万円及び減損損失5億67百万円を特別損失に計上して、当期純損失は、9億64百万円（前連結会計年度当期純利益1億8百万円）となりました。

これを事業別のセグメントで見ますと、建設事業につきましては、売上高146億26百万円（前連結会計年度比18.7%減）、営業利益は、7億45百万円（前連結会計年度比40.7%減）となりました。不動産事業につきましては、売上高50億64百万円（前連結会計年度比45.7%減）、営業利益は、2億94百万円（前連結会計年度比58.7%減）となりました。また、その他事業につきましては、売上高8億73百万円（前連結会計年度比99.5%増）、営業損失は、52百万円（前連結会計年度営業損失94百万円）となりました。

次に、当社単独の業績といたしましては、売上高は、168億66百万円（対前期比29.6%減）、経常利益は、31百万円（対前期比95.1%減）、当期純損失は、8億89百万円（前事業年度当期純利益62百万円）となりました。

当社は、利益配分につきましては、企業体質の強化・充実並びに将来の事業展開等を勘案し、また、安定的かつ継続的に利益還元を行うことを基本方針としております。しかしながら、当期におきましては、受注物件の着工遅れ等から売上高が当初予想を下回り、また、「固定資産の減損に係る会計基準」を適用し減損損失4億52百万円を特別損失に計上いたしました結果、上記のとおり、当期純損失を計上することとなりました。期末配当金につきましては、誠に遺憾ながら、1株当たり普通配当を当初予想の5円から、2円50銭として実施させていただきます。

株主の皆様におかれましては、今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成18年9月

私たちは、常に時代を読み、新しい市場・技術・サービスの開発を継続してまいります。

建設事業部では、これまで「新規事業室」として新しい技術の習得を行ってまいりました。

具体的には、住宅やビルの表面からは目に見えない劣化を見抜く「赤外線診断」技術や、ドイツの厳しい工業基準をクリアした「ノボタン」耐水シートを活用した屋上防水加工技術などで、数々の現場でその技術を活かした施工を行ってまいりました。

当連結会計年度より、その新規事業室を、「リノベーション事業グループ」として組織変更を行い、更なる飛躍を目指します。

「リノベーション」とは、「刷新・改革・修理・改造・修復」を意味し、当グループでは、既存の建物に対し、改修や補強だけでなく、用途や機能の変更により建物の価値を高めるための設計・施工を行っております。

当期の実績の一部をご紹介します。

◎ マンションの耐震補強を含む大規模修繕工事を行いました。

マンションの外壁を含む大規模修繕の一環として、耐震補強を含む工事の事例です。



基礎の補強及び鉄骨ブレースによる
躯体補強を行った集合住宅



マンション修繕工事に伴う
ノボタンシート「30年補償防水」工事

◎ コンバージョン事業にも取り組みました。

「コンバージョン」とは、既存のビルや商業施設、倉庫などを「用途転換」する手法を意味します。

当社で設計・施工を行った事例は、1～2階をオフィスとして、3～4階を社宅として利用していた建物を、インターナショナルスクールの校舎として「生まれ変わった」ものです。

基礎、柱、外壁を残し屋内は各教科の教室、あるいは先生の職務室として作り変えました。また、既存の建物ではなかった中央メイン階段とエレベーターは各階の床をくり抜いての大工事により設置したものです。



児童の安全を考慮し躯体に補強を加えることも行いました。

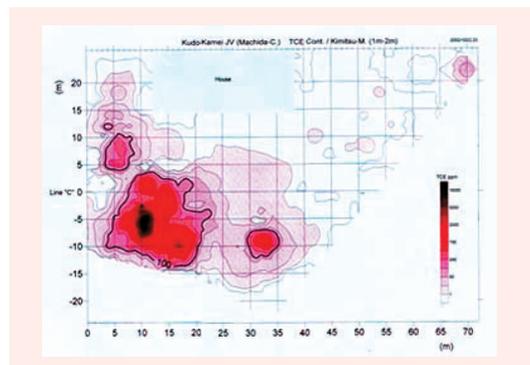


◎ 環境ビジネスへの取り組みも、「営業化」段階に入ります。

平成15年より当社にて取り組んでおります、「土壌の汚染調査」並びに「汚染浄化」業務につきましても、これまで多くの実績を積んでまいりました。

これまでの3年余にわたる実務経験に基づき、環境省に対して「指定調査機関の指定」の申請を行い、平成18年7月に指定を受けることができました。

今後は、「指定調査機関」として、「調査」を行い、調査結果に基づく浄化施工までの「一貫体制」により、「短納期、高品質、低価格」を実現いたします。



全てのデータを統合し汚染分布図を作成。
これを基に浄化計画を作成します。

ボーリングバーで地下空気採取孔を確保し、
検知管を使用して地下空気汚染濃度を測定します。

■ 連結貸借対照表（要旨） （平成18年6月30日現在）

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
		<small>（単位：百万円）</small>
（資産の部）		
流動資産	10,770	9,569
固定資産	8,785	11,120
有形固定資産	4,123	7,164
無形固定資産	280	63
投資その他の資産	4,381	3,892
資産合計	19,556	20,689
（負債の部）		
流動負債	11,648	10,068
固定負債	5,232	7,035
負債合計	16,881	17,104
（少数株主持分）		
少数株主持分	—	191
（資本の部）		
資本金	—	867
資本剰余金	—	549
利益剰余金	—	1,979
株式等評価差額金	—	81
自己株式	—	△83
資本合計	—	3,393
負債、少数株主持分及び資本合計	—	20,689
（純資産の部）		
株主資本	2,248	—
資本金	867	—
資本剰余金	549	—
利益剰余金	917	—
自己株式	△85	—
評価・換算差額等	151	—
その他有価証券評価差額金	151	—
少数株主持分	274	—
純資産合計	2,674	—
負債・純資産合計	19,556	—

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書（要旨） （自平成17年7月1日 至平成18年6月30日）

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
		<small>（単位：百万円）</small>
売上高	20,564	27,756
売上原価	17,964	24,314
売上総利益	2,599	3,442
販売費及び一般管理費	2,340	2,283
営業利益	259	1,158
営業外収益	282	161
営業外費用	316	470
経常利益	224	849
特別利益	77	—
特別損失	747	414
税金等調整前当期純利益（△損失）	△445	435
法人税、住民税及び事業税	100	83
法人税等追徴税額	—	18
法人税等調整額	332	143
少数株主利益	86	80
当期純利益（△損失）	△964	108

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（自平成17年7月1日 至平成18年6月30日）

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
		<small>（単位：百万円）</small>
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,914	3,465
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,186	△3,288
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,904	△86
現金及び現金同等物の増加・減少額	1,195	90
現金及び現金同等物の期首残高	2,459	2,354
新規連結子会社の現金及び現金同等物の期首残高	—	14
現金及び現金同等物の期末残高	3,655	2,459

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)

(単位：百万円)

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成17年6月30日 残高	867	549	1,979	△83	3,312	81	191	3,585
連結会計年度中の変動額								
利益処分による配当	—	—	△64	—	△64	—	—	△64
中間配当額	—	—	△32	—	△32	—	—	△32
当期純利益	—	—	△964	—	△964	—	—	△964
自己株式の取得	—	—	—	△1	△1	—	—	△1
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額 (純額)	—	—	—	—	—	70	82	152
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△1,062	△1	△1,063	70	82	△910
平成18年6月30日 残高	867	549	917	△85	2,248	151	274	2,674

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度 (自平成16年7月1日 至平成17年6月30日)

科目	建設事業	不動産事業	その他事業	計	消去又は全社	連結
						(単位：百万円)
売上高及び営業損益売上高						
外部顧客に対する売上高	17,999	9,320	437	27,756	—	27,756
セグメント間の内部売上高又は振替高	132	12	—	144	(144)	—
計	18,131	9,332	437	27,901	(144)	27,756
営業費用	16,875	8,580	532	25,988	610	26,598
営業利益 (△営業損失)	1,256	751	△94	1,913	(754)	1,158
資産、減価償却費及び資本的支出						
資産	3,346	11,357	212	14,916	5,773	20,689
減価償却費	15	116	2	135	39	174
資本的支出	53	3,091	22	3,167	16	3,184

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

当連結会計年度 (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)

科目	建設事業	不動産事業	その他事業	計	消去又は全社	連結
						(単位：百万円)
売上高及び営業損益売上高						
外部顧客に対する売上高	14,626	5,064	873	20,564	—	20,564
セグメント間の内部売上高又は振替高	3	12	—	15	(15)	—
計	14,630	5,076	873	20,580	(15)	20,564
営業費用	13,884	4,781	926	19,592	712	20,305
営業利益 (△営業損失)	745	294	△52	987	(728)	259
資産、減価償却費及び資本的支出						
資産	4,762	7,860	524	13,147	6,408	19,556
減価償却費	14	102	17	134	32	166
資本的支出	19	728	183	930	3	933

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分であります。

2 各事業区分に属する主な事業内容

建設事業：建築・土木その他建設工事全般に関する事業

不動産事業：不動産売買、賃貸に関する事業

その他事業：高齢者福祉事業、保険代理店業

■ 単体貸借対照表 (要旨) (平成18年6月30日現在)

科目	当期	前期 (参考)
		(単位: 百万円)
(資産の部)		
流動資産	9,422	7,359
固定資産	8,313	8,606
有形固定資産	3,894	3,839
無形固定資産	152	27
投資その他の資産	4,267	4,739
資産合計	17,736	15,966
(負債の部)		
流動負債	10,561	8,322
固定負債	4,962	4,511
負債合計	15,524	12,833
(資本の部)		
資本金	—	867
資本剰余金	—	549
資本準備金	—	549
利益剰余金	—	1,723
利益準備金	—	149
任意積立金	—	1,201
当期末処分利益	—	373
其他有価証券評価差額金	—	76
自己株式	—	△83
資本合計	—	3,133
負債・資本合計	—	15,966
(純資産の部)		
株主資本	2,067	—
資本金	867	—
資本剰余金	549	—
利益剰余金	735	—
自己株式	△85	—
評価・換算差額等	143	—
其他有価証券評価差額金	143	—
純資産合計	2,211	—
負債・純資産合計	17,736	—

■ 単体損益計算書 (要旨) (自平成17年7月1日 至平成18年6月30日)

科目	当期	前期 (参考)
		(単位: 百万円)
売上高	16,866	23,962
売上原価	15,703	21,855
売上総利益	1,162	2,107
販売費及び一般管理費	1,143	1,228
営業利益	19	878
営業外収益	297	168
営業外費用	285	409
経常利益	31	637
特別利益	2	—
特別損失	576	411
税引前当期純利益 (△損失)	△542	226
法人税、住民税及び事業税	13	12
法人税等調整額	332	132
当期純利益 (△損失)	△889	62

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

■ 株主資本等変動計算書

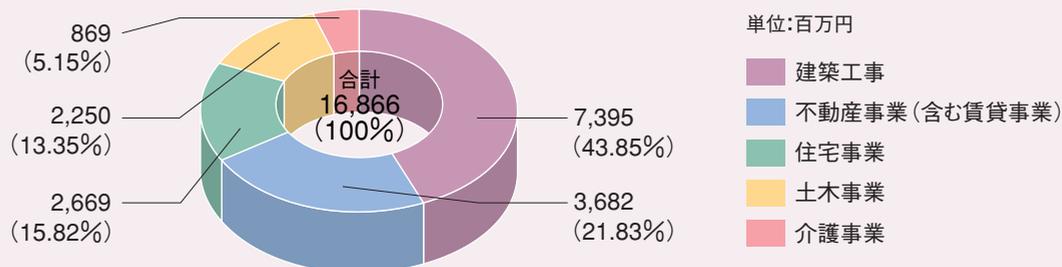
当期 (自平成17年7月1日 至 平成18年6月30日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計	評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			利益剰余金 合計				
		資本 準備金	利益 準備金	特別償却準備金	別途積立金	繰越利益剰余金					
平成17年6月30日 残高	867	549	149	1	1,200	373	1,723	△83	3,056	76	3,133
事業年度中の変動額											
利益処分による配当	-	-	-	-	-	△64	△64	-	△64	-	△64
利益処分による中間配当額	-	-	-	-	-	△32	△32	-	△32	-	△32
当期純利益	-	-	-	-	-	△889	△889	-	△889	-	△889
自己株式の取得	-	-	-	-	-	-	-	△1	△1	-	△1
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67	67
事業年度中の変動額合計	-	-	-	-	-	△987	△987	△1	△988	67	△921
平成18年6月30日 残高	867	549	149	1	1,200	△614	735	△85	2,067	143	2,211

※記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

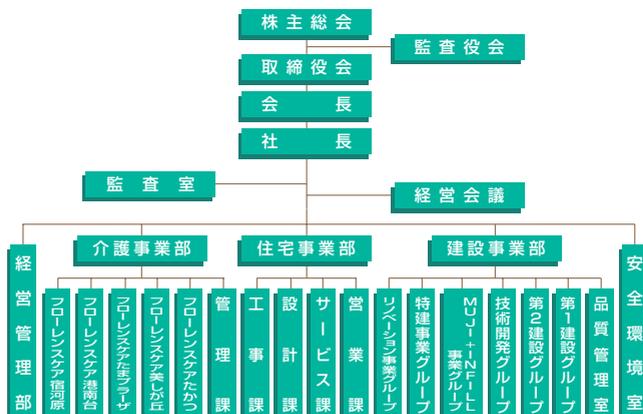
■ 単体売上高構成比



■ 会社概要 (平成18年7月1日現在)

商号	工藤建設株式会社
設立	昭和46年7月1日
代表者の氏名	工藤 英司
事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
従業員数	269名 (男子 163名、女子 106名)
事業所	
本社	神奈川県横浜市青葉区新石川4-33-10
東京支店	東京都港区浜松町2-1-16 (第3粕谷ビル)
多摩営業所	東京都町田市南大谷1327-153
戸塚営業所	神奈川県横浜市戸塚区名瀬町2189-1 (プロデュースヨコハマ内)
フローレンスケアたかつ	川崎市高津区久末1744-2
フローレンスケア美しが丘	横浜市青葉区美しが丘4-43-4
フローレンスケアたまプラーザ	川崎市宮前区犬蔵2-17-65
フローレンスケア港南台	横浜市港南区港南台6-5-13
フローレンスケア宿河原	川崎市多摩区宿河原6-12-29

■ 組織図 (平成18年7月1日現在)



■ 役員及び執行役員 (平成18年9月28日現在)

取締役相談役	工藤 五三
代表取締役会長	工藤 次郎
代表取締役社長	工藤 英司
取締役	工藤 隆晃 (建設事業部長)
取締役	遠山 悌二郎
常勤監査役	阿久津 治男
監査役	八重沢 知正
監査役	奥原 章男
常務執行役員	神田 良雄
執行役員	石田 米治 (営業担当)
執行役員	藤井 研児 (介護事業部長)
執行役員	小坂橋 洋之 (住宅事業部長)
執行役員	遠藤 知明 (経営管理部長)

■ 連結子会社の状況 (平成18年6月30日現在)

会社名	資本金 (百万円)	議決権比率 (%)	主要な事業内容
(株) 日建企画	50	40	建物総合管理業、不動産の売買・賃貸・仲介及び管理業、各種建設工事業、電気設備工事業、損害保険の代理店業他
(株) サンビルド	50	40	分譲マンションに関する建物総合管理業
(株) 東洋リース	10	40	建築機械及び建築資材のリース業並びにレンタル業、とび工事業
(株) みらいテクノハウス	50	40	工務店経営のマネジメント及びコンサルタント業務 建築物の構造、工法等に関する技術開発等
(株) ビーエー・ジー	10	—	不動産の売買・賃貸・仲介業

注) 当社が匿名出資組合により実質的に支配しておりました個大名ワンは、同社の事業完了に伴う清算により、今中間期末において連結の範囲から除外しておりますが、損益計算書のみ連結しております。

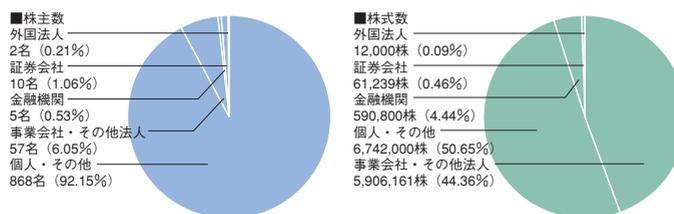
■ 株式の状況

発行可能株式総数	44,000,000 株
発行済株式の総数	13,312,200 株
株主数	942 名

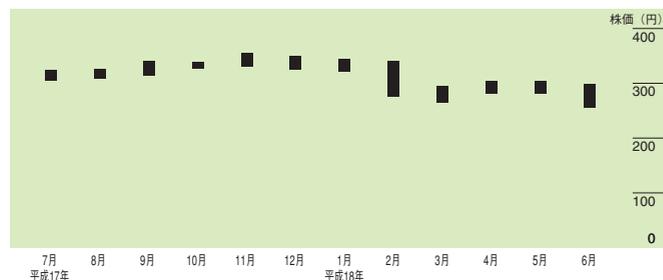
■ 大株主

株主名	持株数 (千株)	出資比率 (%)
株式会社トップ	5,720	42.97
工藤五三	1,080	8.12
工藤英司	559	4.20
工藤隆司	558	4.19
株式会社横浜銀行	391	2.94
工藤次郎	370	2.78
工藤建設株式会社	325	2.44
有限会社ジーピーシー	200	1.50
八重沢知正	190	1.43
株式会社三井住友銀行	114	0.86

■ 所有者区別株式分布状況



■ 株価チャート



株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月
基準日	毎年6月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
期末配当金	毎年6月30日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主（実質株主を含む）または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当金	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年12月31日の最終の株主名簿（実質株主名簿を含む）に記載または記録された株主（実質株主を含む）または登録株式質権者にお支払いいたします。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
連絡先・送付先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-707-696（フリーダイヤル）
取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
公告方法	電子公告。ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは日本経済新聞に掲載。 公告掲載アドレス http://www.kudo.co.jp/

～お客様の多様なニーズにお応えし、戸建て住宅事業を強化します～

無印良品の「木の家」のネットワーク パートナーになりました。

2005年9月、当社は「無印良品」のポータル&コミュニティサイトを運営する“ムジ・ネット株式会社”のネットワークパートナーになり、「無印良品」が企画・販売する戸建て住宅「木の家」のモデルハウス展示と営業を展開することとなりました。

本年12月には、港北ニュータウンセンター南駅近くに、モデルハウスが完成する予定です。

建築工学に基づく安全なSE (Engineering for Safety) 構法の採用により、開放感のある「一室空間」を可能とするもので、「住空間を自由に編集できる木造住宅」をご提案します。

無印良品「木の家」開設準備室

ムジネット株式会社
フリーダイヤル 0120-6404-15



景観に馴染むシルバーの箱のようなシンプルな外観



ホームページへのアクセスを
お待ちしております。

工藤建設のWEBサイトは、お客様とのコミュニケーションのコアとして、充実した情報を提供。物件の紹介・販売にも大きな役割を果たしています。

<http://www.kudo.co.jp/>

情報満載！

